

令和5年度 第1回福井県総合教育会議 結果概要

◆ 主な意見

○知事

- ・児童生徒・教員は、DX推進1年目の令和3年の頃と比べ、今はツールを使いこなし、皆工夫して進めていることが分かった。
- ・デジタル教材やICTツールなど授業の仕方が増え、教員にはそれらをコーディネートする能力が問われるようになってきていることを痛感した。
- ・ツールにもっとものを任せられて、沢山の人が見られるようにするなど、革新的な方法を考えて、先生に時間ができて更にツールを生かしていく力を伸ばしていくかとか、そういったことを考えていかないといけない。
- ・学校現場では基盤整備がまだ足りていないことや、やり方を教えてくれるコンサルタントのような人が重要だということは分かった。

○教育委員

- ・DXをどうしたらいいのかと分からない先生もいる。学校全体、チーム全体の力が上がってこないといい結果が生まれないと思う。
- ・ICTツールはコミュニケーションのためだけではなく、自己表現のためのツールとしても有効であるということを伝えていくと良い。
- ・SLACKによる情報共有は、教員が多忙のため現場で聞くこともできない中、知りたいことをいつでも見ることができる良い取組み。産休中・育休中の教員にもありがたく、もっと広げていけると良い。
- ・学校を変えていくには校長先生がリーダーシップを持って進めないといけない。

○教員

- ・まだ周りとの関係性ができていない児童生徒が少しずつ自己表現をしていく際に、ICTツールは効果的。
- ・ビッグデータにより、経験豊富な先生の何となくの勘とかではなく、エビデンスで話し合う機会を持つことができる。
- ・セキュリティ対策について、もう少し教員のやりたいことができる遊びがあると、もっと新たな取組みを実践・挑戦できる。県が統一して行えるとよい。

- ・教員は、業務に追われて余裕がなく、新たにICT等を学んだり、教員間で情報共有の会話をしたりすることが十分にできていない状況。余裕ができればICTはもっと進む。
- ・研修なり会議なり、余裕をもって授業について話す場があると良い。
- ・授業で使用するモニターのサイズが小さく、wi-fiが使えない教室があるなど、デジタルインフラがまだ不十分のために教員の手間がかかっている。
- ・子どもたちに教えるのと同様に、自分たちも研修にICTツールを取り入れなければならない。
- ・教育DXにどこから手を付ければいいかわからない学校に対するコンサルテーションが必要。成果が出るまで継続的な支援が必要。